

平成27年4月28日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、矢野、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより 97

月例会が開催されました

4月の月例会が開催され、4月および5月分のシフトを西村さんを中心に調整していただきました。

まもなくゴールデンウィークを迎えますが、ご都合等が変更になった場合は、またご一報いただければと思います。

(※5月の連休明けは、7日が休館日になります。)



旧村川別荘8年半の歩み

このたび4月1日付の人事異動で、旧村川別荘市民ガイドの立ち上げから関わってきた職員Kが文化・スポーツ課を離れることになりました。そこで、4月の月例会では旧村川別荘市民ガイド立ち上げからの8年半を振り返りました。

●ガイド発足まで

平成13年に旧村川別荘の建物が市に移管されてからの約4年間は、シルバー人材センターの方に週3～5日ほど掃除等の維持管理を依頼するのみで、来訪者数も年間約500～600人(月約40～50人)ほどでした。平成17年頃に旧村川別荘の活用を図る目的で「我孫子の景観を育てる会」と教育委員会との協同で、ボランティアを募集することになったのです。

●ガイドスタートと「旧村川別荘だより」

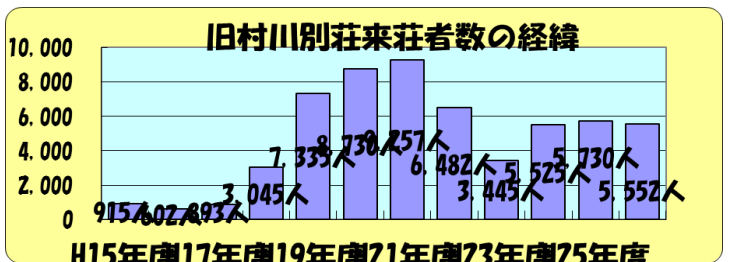
平成18年10月18日に、広報等を通じてガイドを募集しスタートしました。ガイドマニュアルは無く、村川堅固・堅太郎親子や我孫子の史跡に関する資料をお渡しし、各々で読み込んでいただいたうえで、自分の言葉でガイドしていただく形式をとりました。また、来訪者からの質問や問合せの内容を月例会で話題にすることで、知識を共有することにもつながりました。さらにそこから派生し、毎月の月例会では、文化課(当時)職員が知識の幅を広げるために調べたことを報告するスタイルが定着しました。



しかし、多忙なガイドさんが多く、月例会を欠席されること等もありましたので、その際の情報共有に役立つものとして、ガイド発足当初から「旧村川別荘だより」を発行しました。今号で97号になり、もうすぐ100号という大台に達成します!

●ガイド活動の本格化とイベントの開催

ガイド活動開始前と比較し、来訪者数は約10倍になりました!そして、この8年半の間には延べ約5万4千人が来荘しており、単純な計算ですが、ガイドさんお一人で、約2,700人の方をご案内したことになります!(すごいです!!脱帽です!!)



また、旧村川別荘を多くの方に知っていただく機会として、季節ごとのイベントを開催してきました。

「竹灯籠の夕べ」は平成19年から、通算8回開催してきました。最初は風が吹くとすぐに火が消えてしまい苦労しましたが、現在では「竹灯籠用水ローソク」により、灯籠の火は安定しています。

「ひなのまつり」は平成20年度から開催してきました。今年の開催で、6回を数えます。会場の展示は年々華やかになり、マスコミにも取り上げられるなど、すっかり春の風物詩として定着しましたね。

●市指定文化財化と修理工事

より魅力ある旧村川別荘にするために、国の交付金を受けて修理工事を行ってきました。そのためには、建物の重要性を担保する必要があり、平成19年5月には市指定文化財となりました。また、それに伴い部屋の貸出を廃止し、「文化財建造物とそれを紹介するボランティアガイドの活動の場」となりました。

平成21～24年にかけて、園路の手すり設置、旧村川別荘の上下の門・池・柵・三角地の整備、母屋・新館の修理、新館の銅板屋根葺き替えなど修理工事を行いました。

●研修会の実施

松戸定邸、東京たてもの園、市川市、益子町、村川家のある文京区、護国寺など、実際に歴史的建造物を活用している現場を見学に行きました。

●「別荘地我孫子と旧村川別荘」の刊行

平成19年に村川夏子さんにご講演いただいた講演会の記録と、我孫子周辺の別荘地の調査結果をまとめ、平成22年に「別荘地我孫子と旧村川別荘」が刊行されました。大正時代の我孫子の一面を知る基本資料として、ガイドのみなさまのお役に立てたのではないかと考えています。

●8年半を振り返って

ガイドのみなさまや来訪者の方からいただいた声を良い形で反映させるよう努めてきましたが、至らない点につきましてはお詫び申し上げます。今日、「我孫子に旧村川別荘あり！」と知られるようになったのも、ガイドのみなさまがいてくださったからこそだと改めて実感しております。

最後になりましたが、みなさま本当にいつもありがとうございます。これからも末永く旧村川別荘をよろしく願いいたします。(*_~*)

連絡・意見交換など

●庭園だより

・春を迎えた旧村川別荘での一コマをおたよりにしてくださいました。鳥のさえずりやシュンランなどの説明がありました。※シュンランの写真(右上)は旧村川別荘内で撮影したものではありません。



●「第15回我孫子アートな散歩市」について

- ・5月7日(木)～22日(金)まで、市内各所を地域の創造活動の発表・展示・販売の舞台として開催する行事です。
- ・旧村川別荘においても、建物内にオブジェを飾ることになりました。5月6日(水)搬入、5月22日(金)撤収の予定です。

●我孫子の景観を育てる会からの報告

- ・「景観あびこ」第66号から、季節に応じたコラムを掲載することになりました。初回は、杉村楚人冠邸を取り上げています。ぜひご覧ください。
- ・3月30日(月)に開催した観園会はお天気にも恵まれ、2,500人超の方々が来場されました。
- ・いろいろ八景コンサートには村川ガイドからも多数のご参加をいただき、ありがとうございました。(4月4日(土)には八景に選出された電力中央研究所が公開され、桜の見学会が行われました。)
- ・景観散歩のご案内です。5月19日(火)に佐倉市に行きます。

●イベントのお知らせ

- ・白樺文学館で現在開催している企画展「我孫子・白樺派を継ぐ者-原田京平を語る-」のイベントとして、座談会を開催することになりました。矢野さんも講師として出席されます！みなさまのご参加をお待ちしています。※予約制です。



◇日時 5月9日(土) 13時～14時30分

◇会場 アピスタ2階ミニホール

- ・毎年恒例の我孫子の文化を守る会との共催事業として開催している「文化講演会」を今年も開催します。ぜひご参加ください。

◇日時 5月24日(日) 14時～15時30分

◇会場 アピスタ2階ミニホール

●河村蜻山のお孫さんについて

- ・3月25日(水)に河村蜻山のお孫さんが来荘され、1月の月例会で取り上げた「灰皿」についてお話をしました。実物をぜひ見たいです。

⇒今年度中に杉村楚人冠記念館で展示できればと計画しておりますので、改めてお知らせします。

3月の来荘者数

平成27年3月の来荘者数は、955人でした！

(平成26年度の来荘者数は5,555人でした。)

平成26年3月 797人 平成25年3月 1,112人

平成24年3月 0人(工事期間中のため)

次回の月例会は・・・

次回の月例会は、5月1日(金)9時30分から旧村川別荘新館で開催いたします。

よろしく願いいたします。



平成27年5月27日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、矢野、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

98

市民ガイド月例会が開催されました

5月の月例会が開催され、5月と6月分のシフトを調整しました。ゴールデンウィーク中でしたが、多くのガイドの皆さんに出席していただきました。

6月もよろしくお祈りします！

床の間と掛軸

4月末に、母屋に「花」の掛軸を、新館に「夜学」の掛軸を飾りました（「アートな散歩市」の間は、一時的に外してありました。）。どちらの軸も存在感があるので、質問を受ける機会も多いかと思えます。また、「ひなのまつり」において、来荘者から母屋の扇面に関する質問もあったということがあり、5月の月例会では、それらについて改めて勉強してみました！

●床の間とは・・・

座敷の一角につくられるお客様をもてなすための座敷飾りの中心となる施設で、書画の掛軸あるいは活花を飾るところです。



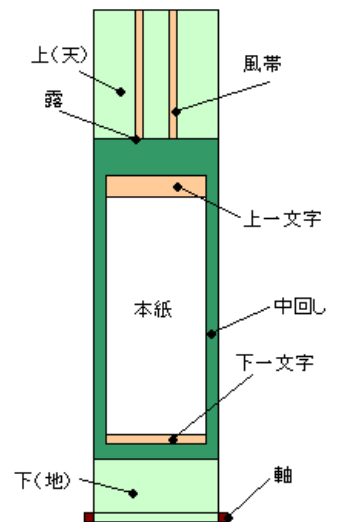
鎌倉時代の僧坊（僧侶の住まい）では、壁に仏画をかけ、その前に「押板（おしいた）」という厚い板を置き、そこに三具足（香炉・花瓶・燭台）を置くような賑やかな飾り方が一般的でした。後に、室町時代の書院造において、茶室の影響により「床の間」に転化したと言われています。一つの軸や花への意匠が集約され、貴族や武家の邸宅や別荘の唯一の座敷飾りとして設けるものとなりました。江戸時代を通じて、座敷飾りが民家を含む広い層に普及することに伴い、床の間も主要な座敷に必須なものとして一般化していきました。

●掛軸（掛物）とは・・・

保存と展開に便利のように、書画などを紙や絹で仕立てる表装形式の一種です。

中国から輸入模倣され、日本では主に中世以降に利用されています。中世以後の日本建築の構造上、特にそれが利用される会所・書院・茶席などの性質のために、書画を中心に愛好されました。南北朝時代には「懸物（かけもの）」と呼びましたが、江戸時代後期から書き改められて「掛物（かけもの）」と俗称されるようになり、現代にも引き継がれています。

掛軸（掛物）は、室町後期から安土・桃山、江戸初期と茶道が普及する中で発展し、現在も茶掛（茶室用として作られた掛軸で、丈の短い作品や幅の広い作品によく用いられる。細い軸幅が特徴。）などの形式が親しまれています。



ここでは3つの部位をご紹介します。まず、**中回し**とは表具のデザインを決める重要な部分で、軸に仕立てる際にも、まず中回しから選ぶこととなります。**風帯**は、かつて中国で屋外において掛物を鑑賞する習慣があったようで、ツバメが飛来して汚すのを防ぐために取り付けられたのがはじまりとされています。**軸**の用材は象牙、紫檀（したん）、角（つの）、竹など様々です。神仏に関係あるものには、獣類を原料とするものは使われません。

ただし、**芸術作品には「絶対の決まり」や「正解」が無い**場合が多いです。そのため、**すべての掛軸が必ずしも定型に当てはまるわけではない**ようです！

●旧村川別荘 新館の掛軸「夜学」

次に、旧村川別荘の掛軸「夜学」を見てみました。
【意訳】『「皆の者、寝よ」と告げる鐘の音は、机に私に向かって夜学を始める合図なのだよ。』

奈理介李	者しめ	わが打無かふ	文机耳	衾よとの鐘盤	美那人乎	夜学	廣定
------	-----	--------	-----	--------	------	----	----

なりけり	始め	我が打ち向かう	文机に	寝よとの鐘は	皆人よ	夜学	廣定
------	----	---------	-----	--------	-----	----	----

左記が掛軸に書かれている内容です。月例会でご指摘いただきました通り、最後の文字は「季」ではなく「李」が正しいことがわかりました！くずし字用例辞典を見ても、「り」と読ませる漢字の中に「季」は無く、「李」が掲載されていました。お詫びして訂正させていただきます。

また、くずし字を何字かピックアップして、日常で使っている文字の形と見比べてみました。たとえば、右の10個の文字はすべて「夜」と漢字を表しています。一つの文字にも、いろいろな形があるんですね。



●旧村川別荘 母屋の扇面

母屋には2つの扇がありますね♪こちらの意識も確認しました。



【卯の花 意訳】『卯の花が庭一杯に白く咲き満ちている。その白さがまるで雪のようで、卯の花自身の青葉が雪の下から草がのそいているように見えることよ。』



【月前雲 意訳】『厭わしく思っていたら心中が夜空に通じたらしい。美しい月を避けるように過ぎていく雲であるよ・・・。』

ガイド活動の中で質問を受けた際に、今回のテーマが少しでもお役に立つことができれば幸いです^^

連絡・意見交換など

●庭園だより

・4月の旧村川別荘の庭園での一コマをおたよりにしてくださいました。ヤマザクラやタケノコ、メダカ、薬用植物などの紹介がありました。

●「第15回我孫子アートな散歩市」について

・作品搬入日を休館日の5月7日(木)に変更し、8日(金)から22日(金)まで開催しました。22日(金)と23日(土)に作品を撤収し、無事にすべて終了しました。

みなさま、ご協力ありがとうございました。!(^)!

●j-comの番組について(5月4~17日に放送)
・布佐エリア中心に紹介する番組(第3弾)をご紹介しました。

●5月23日(土)「ウォークin手賀沼」の対応
⇒来荘者が多数である場合に備え、瀬戸さんに加わっていただき、午前のガイドを2名体制としました。瀬戸さん、感謝いたします!⇒無事、終了しました。

●イベントのお知らせ

・5月9日(土)原田京平展の座談会について、再度紹介させていただきました。⇒無事、終了しました。
・5月24日(日)にアビスタで開催した文化講演会についてお知らせしました。⇒無事、終了しました。

●意見や提案

・ガイドのシフト希望を記入する様式を新館に置いてほしいです。
⇒対応しました。月例会を欠席した時や記入様式を無くされた時などにご利用ください。

・土日の緊急連絡先(教育委員会職員との連絡手段)を知らせてほしいです。
・月例会の開催が毎月1日であることが既に決まっているので、開催通知の手紙は不要なのではないかというご意見をいただきました。

⇒みなさま、さまざまなご意見、ありがとうございました。課内での検討、確認も進めております。次回の月例会でお話できればと考えております。

・新しいシルバーさんについて

3月いっぱいまで鴨志田さんがお辞めになり、4月より司馬さん(女性)が加わりました。人数は変わらず4名体制です。よろしく願いいたします。

4月の来荘者数

平成27年4月の来荘者数は、393人でした!
平成26年4月 365人 平成25年4月 418人
平成24年4月 227人(前半は工事のためお休み)

新たな編集担当が加わりました!

4月から文化・スポーツ課に仲間入りしました、Yです。よろしく願いします(*^▽^*)ガッパ!

次回の月例会は・・・

次回の月例会は、6月1日(月)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。みなさんにお会いできることを楽しみにしています!



旧村川別荘だより



平成27年6月19日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、矢野、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

99

市民ガイド月例会が開催されました

6月の月例会が開催され、6月と7月分のシフトを調整しました。梅雨に入り、天気が安定しない今日この頃…。でも、気分は明るく元気に過ごしたいですね！今月もどうぞよろしくお祈りします^▽^



岡倉天心と柳宗悦

明治を代表する美術思想家である岡倉天心を描いた映画「天心」の上映会が、4月に市内で開催されました。その上映会を機に、岡倉について詳しく調べたところ、大変興味深い人物であることがわかりました。今回は、我孫子に居を構え、大正から昭和にかけて活躍した柳宗悦と比較し、2人の思想家を紐解きました。

●岡倉天心とは・・・

文久2（1863）年に横浜で生まれた岡倉天心(本名:覚三)は、父が藩命で生糸貿易商であったことから、幼少期から日常的に外国人と触れ合う環境にありました。



官立東京外国語学校（現東京外国語大学）、東京開成学校（現東京大学）で学び、九鬼隆一の推挙で文部省に勤務しました。お雇い外国人フェノロサとの出会いを機に日本美術の重要性を認識するとともに、欧米視察時にアールヌーボー（19世紀末から20世紀初めにフランスを中心にヨーロッパで流行した芸術様式で、「新芸術」の意）の高まりを感じ、日本画教育の推進を決意して取り組みました。日本人としての使命感のようなものが湧いてきたのかもしれませんが！

明治22（1889）年に東京美術学校（現東京藝術大学美術学部）が開校し、その翌年から第2代校長となり、横山大観らに日本画を教育しました。後に黒田清輝らにより西洋画科、図案科が新設されましたが、内部対立が起り、岡倉は辞職したのです。

その後、岡倉は日本画専門校として日本美術院を谷中に創設しました。また、インドを訪問して詩聖タゴール（インド国歌の作詞・作曲者です）と交流を持つと同時に、ボストン美術館中国・日本美術部に招聘され、たびたび海外を往復しました。明治38年、五浦の別荘に六角堂を建設し、日本美術院も五浦に移転、さらに横山大観らも家族を連れて移住しました。しかし、五浦での活動は軌道に乗らず3年ほど…（岡倉の死後、横山により日本美術院は復興されました。）。一方、アメリカでは『茶の本』を刊行し、英語で日本文化を紹介しました。明治40年に正五位勲六等を受け、その後ボストン美術館中国・日本美術部長に就任。大正2（1913）年に亡くなりました。

●明治時代の美術の状況とは？

幕府崩壊とともに、狩野派などの幕府・大名お抱えの絵師が失業し、欧化政策の推進により西洋画が流入しました。

これにより日本画界に危機感が走り、フェノロサと岡倉は日本美術の再評価を行いました。他方、伝統的技法に飽き



足らず、新たな表現を追求する動きもあり、狩野芳崖の「悲母観音」（右上）のような大変瑞々しい作品が描かれました。また、皇室関係者の支援を受け、伝統的日本画界に「日本美術協会」が誕生しました。

●柳宗悦との比較 ～2人の共通点は？～

両者とも実家はいわゆるブルジョア層で、東京帝国大学を卒業したインテリであり、社会をリードする立場として多くの知己を有していたといえます。英語に通じ、海外の美術動向に詳しく、海外の友人を通じて自己の主張を海外に広めるとともに、そこでの評価をもとに、日本での立ち位置を確立していきま

岡倉・柳ともに自身は芸術家ではなく、思想家でしたが、筆が立ち、カリスマ性を有し、若

い芸術家を発奮させ、自己の思想を実現するために尽力するコーディネーターとして活躍しました。また、岡倉には九鬼隆一、柳には細川護立・護貞という有力な支援者がいたこと、そして若い芸術家に還元していったことも、両者共通の特徴といえます。

今日、私たちが日本文化・芸術の素晴らしさを実感できるのも、2人の存在が大きく影響している！と思うと、少し身近な存在に感じられますね^^

●おまけの話

岡倉は1日二升を飲む大酒呑みで、下戸だった横山大観も1日一升飲むまでに鍛えられたそうです！相当訓練したのでしょうか…。



また、岡倉がアメリカに滞在中、アメリカ人から“What sort of nese are you people? Are you Chinese, or Japanese, or Javanese?” (あなたはどの種のニーズだ？チャイニーズ(中国人)か、ジャパニーズ(日本人)か、ジャヴァニーズ(ジャワ人)か?)と揶揄されたので、“We are Japanese gentlemen. But what kind of key are you? Are you a Yankee, or a donkey, or a monkey?” (我々は日本の紳士である。ところで、あなたはどの種のキーなのか？ヤンキーか、ドンキー(ロバ)か、モンキー(猿)か?)と皮肉を込めて返したと言われています。岡倉の英語能力の高さが窺えますね！



連絡・意見交換など

●景観あびこの紹介

・4ページ目に「旧村川別荘の夏」と題して庭園の四季の第2弾を掲載しました。また秋号で旧村川別荘が取り上げられる予定です。ご覧ください！

●庭園だより

・キンランなどの植物や蝶などの生き物を紹介していただき、季節の移り変わりを感じました。(右写真：キンランのイメージ)



●アートな散歩市を開催した感想など

・旧村川別荘に初めて来た人がいたことや若い人も来たことは良かったです。
・開催期間中は、ガイドは休みでも良かったのではありませんでした。あまり静かに見られる環境ではな

く、少し窮屈な感じもしました。母屋と新館とで活動エリアを分けても良かったと思います。

・鉄の作品を飾っていた松岡さんの作品は、また見たいと思いました。

⇒ご意見やご感想は、今後の参考にさせていただきます。

●母屋の押入の活用

・月例会欠席者への資料を押入に入れてもらえると、当番日に受け取れるので助かります。

⇒押入を整理しました！今後シフトに入っている方に資料等をお渡ししたいときには、押入を活用させていただきますので、ご確認ください^^

●ガイドの人数について

・最近シフトに入る日数が増えています。ガイドの人数が不足しているように思います。

⇒広報あびこ8月1日号に募集記事を掲載予定です。新たなメンバーを迎えるまで、もうしばらくご協力をお願いします。シフトの組み方については、曜日を限定することなども検討しています。

●石川さんが5月末でガイドを卒業されました

・月例会で、ガイドをするうえで大切にしてきたことなど、石川さんのご経験をもとにお話ししていただきました。今後もイベント時には声をかけさせていただきますので、よろしくお願いします！

●その他の連絡事項

- ・土日の緊急連絡先を口頭でお伝えしました。地震、台風、大雪のときは、ご自身の判断で帰宅していただいて構いません！安全にお帰りください。
- ・ Dengue熱の流行を回避し、今年度の竹灯籠のイベントは10月に開催しようと考えています。暑さも和らぐ頃ですし、開始を1時間早められれば、負担を軽減できると思っています！

5月の来荘者数

平成27年5月の来荘者数は、847人でした！
平成26年5月 388人 平成25年5月 456人
平成24年5月 484人

次回の月例会は・・・

次回の月例会は、7月1日(水)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。暑さがさらに厳しくなりますので、体調管理には気を付けたいですね。そして、来月のお便りで、ついに100号に達します！！



平成27年7月23日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、矢野、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

100



★祝★ 旧村川別荘だより 第100号 発行！

皆さん、こんにちは。なんと、このたび旧村川別荘だより第100号を発行することができました！



これもひとえに、市民ガイドの皆さんをはじめ、多くの方々の支えがあったからこそその快挙です！大変感謝しています。

市民ガイド発足時に第1号を発行してから続い

ている旧村川別荘だよりですが、今後ご愛読いただけるよう、さまざまな話題を発信してまいりますので、よろしくお願いします！

記念すべき第100号は、拡大版でお届けします。最後まで、どうぞお付き合いください(*^▽^*)♪

旧村川別荘だよりの歩み

●旧村川別荘だよりの始まり

さまざまな情報やお知らせを皆さんと共有できるようにとの思いで、平成18年11月10日に第1号を発行したのが、旧村川別荘だよりの始まりでした。平成18年10月18日にガイドの活動がスタートし、月例会で学んだことや情報交換、意見交換をした内容、建物の造り、日帰り研修の報告などを毎月掲載してきました。

約9年経った今も、時々過去のたよりを読み返すと、旧村川別荘と市民ガイドの歴史を振り返ることができますね。

●旧村川別荘が市指定文化財に！（たより第8号）

平成19年7月4日に発行した第8号では、旧村川別荘が我孫子市指定文化財第9号（史跡）として指定されたことを取り上げました。これにより、旧村川別荘の存在意義、並びに注目度が高まり、ガイド活動にもより一層力が入りました。

●竹灯籠の特別号（たより第32号）

平成21年9月29日に発行した特別号では、毎年恒例の竹灯籠の夕べについてご報告しました。屋外でのイベントはどうしても天気に左右されてしまいます。この年は開催中に突然の大雨が…。空に祈りを捧げ、コカリナとギターの演奏に支えられつつ、2日目は晴天に恵まれました。

今年も竹灯籠の夕べを楽しみにしている方々から、お電話で問合せをいただいています。今年は下記の日程での開催を予定しています。ガイドの皆さま、ご協力の程よろしくお願ひいたします。詳細は決まり次第、追ってお知らせします。旧村川別荘にたくさんの方が集い、素敵な夜を過ごせますように！



竹灯籠の夕べ 開催予定

平成27年10月9日(金)・10日(土)

両日とも17時～19時

●たより第50号が発行された頃・・・

折り返し地点の第50号は、平成23年5月10日に発行されていました。東日本大震災から2か月後ですね。幸い、旧村川別荘では大きな被害は見当たりませんでした。被災から復興に気持ちを向けようと、日本全体が必死になっていた時期でした。放射能の問題もあり、例年に比べて来荘者数も落ち

込んでいましたが、JRによる駅からハイキング等のイベントが開催され、徐々に活気を取り戻しました。

●新館・母屋の修繕がひと段落！（たより第61号）

平成24年4月26日発行の第61号では、23年11月から着手した母屋と新館の修繕、庭の整備がひと段落し、4月17日から一般公開を再開した内容を取り上げました。床や壁の色も修繕直後には不自然な感じがしたかもしれませんが、時間を追うごとに馴染んできました。生まれ変わっても、昔の趣はそのままですね ^^

●これからも愛されるおたよりを目指します！

毎月新鮮な情報をお届けしている旧村川別荘だよりですが、皆さんからのお声を励みに発行しています！読むだけで新たな発見がある…たとえ毎月の月例会に参加できなくても、このおたよりで繋がっているような気持ちになれる…そんな役割も果たしたいと思っています。第100号で満足することなく、第200号、300号、その先もずっと続きますように！今後ともよろしくお願ひします♪

市民ガイド月例会が開催されました

7月の月例会が開催され、7月と8月分のシフトを調整しました。

夏の猛暑や人数不足による負担を軽減するため、ガイドが不在になる日も設定させていただきました。不在日については、広報8月1日号、市ホームページ等でお知らせします。また、新規ガイドも募集する予定です。（第4期生）

～旧村川別荘市民ガイド不在予定日～

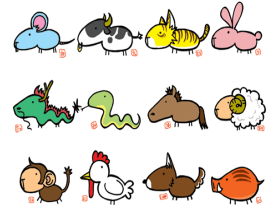
- 7月26日（日）午前のみ不在
- 8月1日（土）、4日（火）、7日（金）、
- 12日（水）、13日（木）、21日（金）、
- 26日（水） 終日不在

来荘者をできる限りおもてなししたい！という声とガイドの皆さんのご協力により、不在日を最小限に抑えることができましたこと、心より感謝申し上げます。

子の神大黒天（延寿院）

7月の月例会では「子の神大黒天・延寿院」をテーマに取り上げました。旧村川別荘の隣にあるというこ

とで、来荘者から色々と尋ねられることもあるのではないのでしょうか。ガイド活動の一助になれば幸いです。



●子の神？ 大黒天？ 寺院？

子の神神社と呼ぶ人がいますが、実は神社ではありません。「子の神大黒天」と「延寿院」の2つが同じ場所にあり、「子の神将」と「大黒天」、そして「仏様」が祀られているのです。

●子の神大黒天とは・・・

天平13（741）年、聖武天皇から全国に国分寺を置く詔書が下され、現在の市川市に下総国分寺が置かれました。しかし、たびたび火災に遭い、十二神将と大黒天の尊像が焼けて



しまうことを恐れていました。そこで、各地の寺院に尊像を移すことにし、我孫子には康保元（964）年の甲子の年、正月8日子の日に、子の神将と大黒天の尊像が納められました。

子の神信仰は山の尾根を歩いて、突端の危険な場所で祈ることが多いと言われており、足腰が強くなければ命を失う危険もありました。祈りを終えて無事に帰還できたら、新しいわらじを奉納したと言われていいます。「長い人生でどんな茨の道でも、わらじが擦り切れることなく歩けるように」との願掛けだそうです。

毎年10月第4日曜日には柴灯護摩が焚かれ、山伏姿の僧侶が呪文を唱えながら集まった人々からお札を集めて燃やし、まだ火が残っているあとを裸足で歩きます。そのあとを信者が続いて裸足で歩きます。ご覧になった方はご存知かと思いますが、不思議とやけどはしないそうです。そして、足腰の病にかからないと昔から信じられています。

また、源頼朝にまつわる伝説も残っています。我孫子で脚気にかかった頼朝の夢枕に大きな白鼠に乗った白髪の翁が現れ、子の神権現の化身であると告げ、ヒイラギで頼朝の足を祓ったところ、翌朝脚気が治っていた、という話です。あくまで「伝説」ですが…

●延寿院とは・・・

真言宗の寺院で、本尊として不動明王が祀られています。開山開基不詳ですが、かつて本町3-6付近（現在の割烹料理 角松本店より1つ北側の区画）にありました。



学制の頒布により、明治6（1873）年からは小学校の校舎としても使われていました。広い御堂を衝立で仕切って教場にしていました。我孫子本校の入学生徒数は明治6年10月の記録によると、男子62人、女子20人、計82人であったそうです。

大正7（1918）年に子の神境内に移転してからは、参拝客の宿泊施設になりました。しかし、その建物も火災により消失したとの記録があります（消失年は不明。昭和28～45年の間に何度か火災があったようです。）。現在の本堂はコンクリート建築で、昭和46年に落慶したものです。

●なぜ同じ場所に・・・??

延寿院は古くから子の神別当寺で、志賀良祐住職の尽力により、大正7（1918）年に子の神境内に移転しました（移転させたかった理由は不明）。

別当寺とは神宮寺の一種で、神社の境内に建立され、供僧が祭祀・読経・加持祈禱をする一方、神社の管理経営を行った寺のことです。神仏習合思想が成立し、本地垂迹説が唱えられた平安時代に、神社では仏教による祭祀が盛んに行われました。神宮寺の中でも別当寺と称されるものは神社の祭祀や管理などの支配権をもった寺で、一般の神宮寺とは区別されます。

一方で明治初期には、維新政府の神仏分離令により、神仏習合をやめようとする宗教政策が進められました。神道国教化の方針を掲げたことから、廃仏毀釈運動の激化を招き、仏堂・仏像・仏具・経巻などに対する破壊が各地で行われました。前述のとおり、子の神大黒天は神社ではありませんが、延寿院とともに今日まで共存していることから、このような排斥運動をうまく乗り越えてきたことが窺えます。

●札所が2か所!?

境内には新四国相馬霊場38番札所（子の神大黒天分）と43番札所（延寿院分）があります。延寿院が移転した時に、43番札所も移されました。江戸時代

中期に四国八十八箇所を模して、我孫子・柏・取手に札所が設けられ、昭和前期まで多くの人々が手軽な巡礼を楽しみました。



38番札所



43番札所

●かつての参道 ～我孫子宿～子の神～成田街道～

我孫子宿と子の神、そして成田街道をつなぐ参道は「子の神道」と呼ばれていました。参道の入り口や分岐点には、今でも道しるべが残されています。

① 寿防犯ステーション横



これよりねのかみみち
從是子神道

② 子の神付近（Y字路）



これよりみぎねのごんげんみち
從是右子権現道
（左）みぎねのかみみち
右子ノ神道

③ 西消防署横



ねのだいごんげんみち
子の神大権現道

子の神道 道しるべ (我孫子宿～子の神道～成田街道)



●おまけ

月例会では、昔、旧村川別荘の管理をしていたおばあちゃんが茶屋を営んでいたという話も出ました。おばあちゃんは副業として茶屋を営み、かつて名物だった「ヒイラギ煎餅」を子の神参拝客に売っていたのかもしれません！

連絡・意見交換など

●庭園だより

トンボ、アジサイ、蚊、蝶などについて、説明していただきました。写真は、6月中旬にSさん宅のお庭で咲いていたアジサイです。



●白樺文学館と杉村楚人冠記念館の入館料免除

- ・ガイド活動の一環（事前勉強、友人などを連れて市内ガイドなど）として利用する場合は、事前に文化・スポーツ課に連絡していただければ、ガイド1人分の入館料を免除します。事前連絡をせずに免除することはできないため、ご注意ください。
- ・市内のボランティア団体にも再確認の意味で周知する予定です。団体の代表者がいる場合には、代表者から文化・スポーツ課に免除申請を提出していただくことになります。

●意見交換

- ・火災などの災害対策を考えてほしいです。
⇒消火器を新館にも設置したいと思います。その他にも対策を考えます。
- ・押入の月例会欠席者への資料は、月初めに入れておいてほしいです。
⇒できる限り早めに対応します。
- ・根戸船戸遺跡1号墳から出土した刀剣は、今後公開されますか。
⇒11月頃にお披露目できないかと考えています。
- ・子の神古墳群の解説を聞きたいです。
⇒今後の月例会テーマの参考にさせていただきます。

6月の来荘者数

平成27年6月の来荘者数は、350人でした！
平成26年6月 244人 平成25年6月 408人
平成24年6月 337人

次回の月例会は・・・

8月1日(土)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。戦後70年を迎え、連日ニュースでも取り上げられているため、最近特に戦争について考える機会が増えました。そこで来月の月例会では、杉村楚人冠記念館で展示中の「戦時下のアサヒグラフ」の解説を中心に、当時を振り返ります。

ぜひご参加ください！！

旧村川別荘だより

101

平成27年8月17日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、矢野、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

市民ガイド月例会が開催されました

8月の月例会が開催され、8月と9月分のシフトを調整しました。毎月とてもスムーズにシフトが決まるので、大変助かります。ありがとうございます！

9月は下記のとおりガイドが不在となります。

9月ガイド不在予定日

1日(火) 午後、 4日(金) 午前
18日(金) 終日、 29日(火) 午後

また、8月末までの新規ガイド募集は、出足は好調でしたが、その後の応募数が伸び悩んでいます…(^_^;) お友達やお知り合いで興味がありそうな方に、ぜひお声掛けをお願いします！！

杉村楚人冠記念館企画展「戦時下のアサヒグラフ」

今年で戦後70年という節目を迎え、連日ニュースなどでも取り上げられていることから、戦争について考える機会が増えたように感じます。そこで8月の月例会では、学芸員の解説のもと、戦時下のメディアがどのように戦意高揚に使われたのかについて、画報雑誌『アサヒグラフ』を読みながら振り返りました。

●前線の苦闘

昭和19年10月11日号の紙面には、グアム島（当時は大宮島）とテニアン島（サイパン島の隣の島）の全滅を伝える記事が掲載されました。しかし「全滅」ではなく「崇高な散華」と表現されています。そして「われ等の忠誠なお足らず、ここに熱涙の悲報を聞く。今こそこの悲憤と敵愾のこころを、ただ戦力増強の一途に叩き込もう。」と、我々の働き不足が全滅を導いてしまったのだから、もっと働け！と呼びかけたのです。表紙は工場で増産に励む働く女性の写真でした。

昭和19年11月8日号には、10月26日にレイテ沖海戦で初めて特攻隊が成果を挙げた内容が掲載されました。見出しには「銀翼の神々」、本文には「機、人もろとも爆弾となって敵艦に突撃する神鷲一。」な

どと書かれ、特攻隊員の神格化が強調されています。（右写真）

昭和19年12月13日号にはレイテ島の苦境を打破するため、日本軍がみおるくうていたい（台湾の高砂族を主とする部隊）による強行着陸たかさごせくを実行したことが掲載されました。この作戦は

帰還を前提としないものであったため特攻の一種といえますが、あまり知られていません。4機のうち3機の行方は分からず、1機のみがレイテ島の日本軍に合流しました。この頃の記事には「さうと壯途（立派なことをしようとするときの勇ましい門出の意）」や「さうげつ壯絶（きわめて勇ましく激しいことの意）」という表現が多用されており、険しく厳しい戦況が窺えます。

●生産の場の戦争

昭和20年1月3日号の「街頭新風景」と題された記事には、大阪の中心地である御堂筋の道端にある畑の写真が取り上げられました。食糧の確保も大変であった状況をよく表しています。都会の真ん中に畑があるなんて、今では考えられない光景ですね。本文では、「日毎夜ごと、サイパンからのお客様は、東京をはじめ各地を念入りに訪問しているが、国民の士気はさがるところか、尻上がりである。」という表現により、空襲の様子が伝えられました。

戦争で生じた労働力不足は、女性の力により補われました。昭和20年1月10日号の紙面は、「かんぜん敢然決戦下の職場に進軍した若い乙女たち」という勇ましい言葉と真剣な表情で働く女性たちの写真で埋め尽くされました（上写真）。今では男



性と同様に女性が社会で働くことは珍しくありませんが、当時は男性が戦地で、女性が工場などで働くことにより、団結して国や家族を支えていたのです。

●空襲と疎開

昭和20年1月24日号には、明るい表情で炭焼きを手伝う疎開児童の様子が掲載されました。「疎開のヨイ子」と題され、疎開生活を明るいイメージで紹介しようとしています。(上写真)



昭和20年2月7日号は、1月27日に東京が受けた空襲の被害ではなく、消火のバケツリレーと疎開児童の写真が表紙を飾りました。その一方で、米軍は空襲を開始すると日本の降伏を促す宣伝ビラ(伝単)を撒き、戦意をくじこうとしていました。

●銃後のくらし

戦場の後方の農村も明るい調子で紹介されました。笑顔でおにぎりをほおぼる女性の写真などを掲載することで、農村に魅力を感じ、子どもたちをも農村に送り込んでもらう狙いがあったと思われる。戦地への召集により働き手を失いながら、食糧増産を求められる苦境も「あなたの汗が人不足も肥料不足も征服した」と美化され伝えられました。



●昭和20年3月7日号 楚人冠 最後のエッセイ

言論が厳しく規制されるなか、楚人冠は昭和19年から戦争とは無関係な内容を連載していました。しかし、心臓病により3月7日を最後に休載とし、結果的にこれが絶筆となりました。このエッセイには友人の息子の言葉という形で、軍隊を親子になぞらえて団結を訴えつつ、親愛のない親子ではいけない！と戦争末期の状況を悲しむ思いが書かれています。過酷な環境を反映した楚人冠の主張といえます。

●企画展は10月4日(日)まで開催中

ぜひ記念館で『アサヒグラフ』をご覧ください、戦時中の日本社会を直接感じてください！！

連絡・意見交換など

●庭園だより

・ウグイスやヤモリ、チョウ、雷が起



こる原理、マンリョウやハエドクソウなどの植物についてお話ししていただきました。

●景観あびこの紹介

・最新号(第68号)が発行されました。7月に我孫子の景観を育てる会が市政功労者顕彰を受賞したそうです！おめでとうございます！

●池にメダカを放流しました

・お知り合いからもらったメダカ約100匹を別荘内の池に放流しました。クチボソなどに食べられてしまう恐れがあるため、ペットボトルを沈めて対策しました。自然の摂理に従うしかありませんが、元気に育つことを祈って見守りましょう。



●その他

- ・天気が悪い日は特に新館の部屋の中が暗いため、卓上電気スタンドを用意してもらいたいです。⇒用意できるよう検討中です。
- ・窓を開けると風で説明用パネルが揺れ、壁が傷つく恐れがあり心配です。パネルに保護シートを貼り付けたらどうですか。⇒検討します。風が強い日や暑い日には、クーラーと扇風機を利用させていただいて構いません。窓を開ける際は、蜂に十分気を付けてください！
- ・8月17日(月)の消防点検の指導に基づき、今後の防災対策を検討していきます。
- ・来荘者対応などで何か困ったことがありましたら、文化・スポーツ課にご連絡ください。ガイドの当番中には様々なお客様が来るとは思いますが、不安に感じた時など、遠慮なくお知らせください！
- ・発掘で出土した物や当時の日常生活などについて、月例会のテーマとして取り上げてほしいです。⇒発掘の現場が落ち着いたらお話しします！

7月の来荘者数

平成27年7月の来荘者数は、125人でした。
平成26年7月 192人 平成25年7月 170人
平成24年7月 212人 梅雨&暑さのため少なめです…

次回の月例会は・・・

9月1日(火)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。テーマは「大正12年9月1日 関東大震災」です。「竹灯籠のタベ」のポスターとチラシも配布する予定です。ぜひご参加ください(*^ω^)/

旧村川別荘だより

102

平成27年9月16日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：須藤、矢野、田中
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

市民ガイド月例会が開催されました

9月の月例会が開催され、9月と10月分のシフトを調整しました。早いもので、平成27年度も半年が経ちますね！10月は下記のとおりガイドが不在となる予定です。

10月ガイド不在予定日

**1日(木) 午前、4日(日) 午後、21日(水) 午後、
 22日(木) 午前、23日(金) 午前、30日(金) 終日**

募集していた新規ガイドには、**心強い3名**からご応募がありました！ガイダンスを経て、月例会などでご紹介させていただきます(*^▽^*)

大正12年9月1日「関東大震災」

9月1日は防災の日、そして92年前に関東大震災が起こった日でもあります。そこで今回は、震災当時の状況をテーマに取り上げました。

●関東大震災とは

午前11時58分、相模湾北西沖を震源に、マグニチュード7.9、最大震度6の巨大地震が関東地方を襲いました。火災や建物の倒壊、津波などにより、死者・行方不明者を含む罹災者は2,548,092人という甚大な被害をもたらしました。東葛飾郡では、全焼半焼世帯3,103、全潰半潰世帯196、死者519人、行方不明者119人という状況でした。



↑丸の内の被害状況（一面が焼け野原）

●我孫子町の状況

9月1日、東京からの避難者は、あたかも蟻の群群のようであった。飢餓に迫る者、疲労がはなはだしい者、歩行できなくなっている者、宿に泊まりたいがお金が無くさまよう者がいた。これに対し鈴木町長は、町の職員及び男女青年団を率いて、**八坂神社境内に救護所を設置**した。食事を与え、寺院に收容して休養させるなど、昼夜を問わず救護に従事すること数日に及んだ。(事務報告要約)

我孫子町議会では、このように報告されました。また、湖北村日秀（現我孫子市日秀）で農業を営んでいた増田^{みのる}實氏の日記には、9月1日の震災直後の様子が記録されていました。情報を得る手段が途絶える中で、人々が混乱している状況がわかります。

雲の様子が怪しく、突風が起こるとともに何度か驟雨（にわか雨）に遭った。正午頃に大地震があり、以後強微震が何十回もあった。灰が舞うのを見て火災を知り、恐怖と好奇心から鉄道の線路まで行くと、無数の人が集まっていた。(日記要約)

●朝鮮人虐殺

翌日、内務省警保局長から各地に「朝鮮人が震災を利用して放火しているため、厳密に取り締まるように」という旨の電報が送られました。しかし実際には、地震の恐怖から起こった**“根拠のない噂”**を**広めた**に過ぎませんでした。この電報により各地で自警団が組織され、朝鮮人約6,000人と、朝鮮人と間違えられた日本人が数多く殺されたといわれています。我孫子町でも、3日と4日に八坂神社境内で、自警団によって3人の朝鮮人が殺されました。

虐殺は6日に国から出された諭告により沈静化しましたが、信じがたい災害と事件により、社会は混乱し、人々は不安感でいっぱいだったことでしょう。

●志賀直哉 ～我孫子にゆかりのある人々の体験①



翌年2月に「震災見舞（日記）」(『新興』創刊号)を発表し、当時の体験を伝えています(以下要約)。

震災時には京都在住で、翌日午後3時頃の列車で東京に向かいました。道中、軽井沢では「東京で朝鮮人が暴れまわっている」との噂を聞き、群馬では警官らが朝鮮人を追っ

のを見て、高崎では「上野の森に火が付き避難民全滅」という嘘の噂を聞きました。上野の山から見た街中は、焼野原でした。(前頁写真参照)

大手町で電車のレールに腰かけて休んでいた時に、若者が朝鮮人を殺した話をしているのを耳にしましたが、普段より気楽に聞いている自分がいました。

麻布の家は塀が崩れていましたが、人も家も無事でした。柳と兼子さんが見舞いに来てくれましたが、彼らも実家ともども無事だったということです。

●杉村楚人冠～我孫子にゆかりのある人々の体験②

息子(次男・三男)を亡くし、12年間苦勞して整理した東京朝日新聞社調査部、著書や写真新聞雑誌『アサヒグラフ』を焼いてしまい、この震災で多くを失いました(ちなみに長男は前年に病死しています。)

一方で、近代建築の脆弱さが露わになったことに対し、「大きな顔をしていた建築家らで腹を切って死んだ者のないのが不思議だ」と述べ、建築関係者の責任の擦り合いを批判しました。



↑左上は三越、右下は白木屋

震災をきっかけとして、楚人冠は大正13年4月に東京府大森町(現東京都大田区)から我孫子町に転居し、「白馬城」での生活を始めたのでした。

●岡田武松 ～我孫子にゆかりのある人々の体験③

中央気象台の台長になって1か月余りの出来事でした。建物は次々と壊れていきましたが、すべきことは地震情報の発表と観測を欠かさないう手配することだったため、前日に孫が生まれたところでしたが、安否を確かめに行く暇もなかったようです。

通信途絶で地方からの地震電報も入らず、唯一茨城方面の大被害に関する情報が入ったことから、震源地を一応茨城県南部として第一報が発表されました。ところが検測し直したところ、震源地は相模方面とする確信がついたため、訂正して17時に第二報が出されました。

最も急を要する仕事を終え、官舎にいる家族の安否を確認しに行くと、幸い妻も娘も初孫も無事でした。

た。家は傾き物が散乱していましたが、妻から家のことは心配いらないと励まされ、仕事に戻りました。

気象台にも火が押し寄せてきて、奮闘もむなしく建物をはじめ全てを守り抜くことはできませんでした。しかし、岡田の冷静な指揮により、施設の一部や重要書類、明治以来積み重ねられた貴重な観測資料の焼失は免れたということです。

大地震の被害は戦争に匹敵するか、それ以上に及ぶことがあります。気分が暗くなってしまいますが、過去を教訓に、日頃から備えて行動したいですね。

連絡・意見交換など

●庭園だより

- ・ 蝉、蚊、蝶、液果の植物などについてお話していただきました。生き物や植物の様子も、だんだんと秋らしくなってきましたね^^

●イベントの紹介

- ・ 10月22日(木) 9:30~11:30にアピスタ第4学習室で、三木会主催の講演会があります。事前申し込み不要です。ぜひご参加ください。

●三谷^{かずじ}一二の別荘

- ・ かつて旧村川別荘付近にあった三谷氏(三菱鋳業取締役会長)の別荘に行ったことがある人に話を聞きました。昭和30年代後半から40年代頃に訪れたとのことで、広い庭を有する和風の家だったそうです。新館の展示パネルの地図を見ると、広大な敷地であったことがわかります。

●早退時の留意事項

- ・ お当番の日に用事等で早めに帰る際には、シルバ-さんにひと声かけてから帰るようにしましょう。

●ガイド研修計画

- ・ 2月に江戸東京たてもの園への日帰り研修を計画しています!詳細は追ってご連絡します。

8月の来荘者数

平成27年8月の来荘者数は、131人でした。
平成26年8月 124人 平成25年8月 272人
平成24年8月 96人

次回の月例会は・・・

10月1日(木) 9時30分から旧村川別荘新館で開催します。テーマは「竹灯籠の夕べに向けた予備知識」です。竹灯籠の夕べ(10月9日、10日)のシフト調整も行います(=^ω^=)

旧村川別荘だより

103

平成27年10月19日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：須藤、矢野、田中
 〒270-1166
 我孫子市我孫子1684番地
 TEL:04-7185-1583(直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

市民ガイド月例会が開催されました

10月の月例会が開催され、10月と11月分のシフトを調整しました。新たに仲間入りしたガイドも出席され、自己紹介をしていただきました。ガイドの活動に少しずつ慣れていってください。これからよろしくお願ひします！

竹灯籠の夕べに向けた予備知識

10月の月例会では、10月9日(金)・10日(土)の「竹灯籠の夕べ」の予備知識を取り上げました！

●竹について

日本人が竹を利用した歴史は古く、紀元前3千年前からと言われています。縄文時代の遺跡からは、竹の文様と考えられる竹管文ちゅうかんもんなどが発見されています。弥生時代後期には鉄器が盛んに使われ、竹細工も繊細なものが編まれるようになりました。生活に関わる漁具うりぐの釜かま、篋かみ、籠なども作られていました。タケノコもさかんに食べられていたことも明らかになっています(奈良県の唐古遺跡、静岡県の登呂遺跡などで確認されました。)。また、古墳～奈良・平安時代の六つ目編みの竹細工が出土しているほか、指で食べる食事から箸を使った食事への変化があったこともわかっています。そして、中国に渡って修行した日本の僧侶が仏典とともに持ち込んだ多くの竹製品が、正倉院の御物として今も保存されています(例として、筆軸、竹籠、楽器類、武具などが展示されています。)。中世になると茶道、華道などの文化が始まり、その道具や用具が竹で作られ始めました。近世には日常の道具、雑貨、民具、工芸品が竹から作られ、中期になり孟宗竹が渡来し、竹製品は全国的に利用されるようになりました。



けきた。咄嗟に頭に挿していた神聖な爪櫛つめくしの歯を折って魔女に投げつけたところ、そこからタケノコが生えてきて魔女が食べている間に逃げ切った…中略…

他の場所にコノハナサクヤヒメが皇子を出産したときに竹刀でへその緒を切り、その刀を土に突き刺しておいたところ、逆さタケが生えてきた…中略…
→竹が当時利用されていたことがわかる一節です。

～ 『竹取物語』から見る“竹”～

成立年、作者ともに未詳ですが、平安初期の10世紀半ば頃までには成立したとされています。冒頭「今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹をとりつつ、よろづのことにつかひけり。」という有名なフレーズがありますが、この文章からも、竹が生活用具であったことがわかります！

竹の種類と産地は主に3つあり、「孟宗竹」は18世紀に中国より渡来した種類で、高さ10～20mとなるタケノコの代表格の大竹です。旧村川別荘の竹はこの孟宗竹です。「真竹」は北海道を除く各地で植栽されており、竹製品によく用いられます。節目が長く美しく、表皮部が建築材に用いられます。小型の「ハチク」は高さ10m、直径3～10cmの種類です。

竹かんむりの漢字を集めてみました！

ざる たが たけのこ みの はし かご さお かさ ふうて ほうき
筥、箍、筍、箕、箸、籠、竿、笠、筆、帚、
 はこ ふうい いかた ふうえ こと しょう
箱、篩、筏、笛、篳、笙・・・

生活道具や楽器など、竹が昔から我々の生活に密着したものであったことがわかりますね！

●灯籠について

灯火をともし日本の伝統的な照明器具で、石や金属、または竹や木などで作られます。本来、神前や仏前に灯火を献ずる器具でもあります。神棚には木枠で小型のものが、寺院庭園など屋外には石灯籠な

～ 古事記に登場する“竹”～

イザナギノミコトが妻イザナミノミコトの死体を見たために、魔女が怒ってイザナギノミコトを追いか

どが設けられます。

灯籠は仏教とともに渡来したと言われており、推古天皇や聖徳太子らによる仏教の流入と仏寺の建築、仏像製作などが盛んになる中で発展しました。その後、室内で用いる行燈や、折り畳み式で携帯も可能な提灯に分化していき、現在では寺院や旧街道沿いの固定式のものが多いです。光源は、油やろうそくでした。



灯籠は、もともと仏像に清浄な灯りを献ずるために仏堂などの前面に配置されました。古代寺院においては本尊に面して伽藍配置の中軸線上に1基置かれるのが通例であったため、左右非対称の伽藍には灯籠の遺構が見られず、中軸線が確認できる伽藍配置においてのみ確認されています。

仏教の伝来に伴い石灯籠も輸入され、日本でも製作されるようになりましたが、奈良～鎌倉の各時代においては仏寺の献籠でした。しかし、庭園文化の発達と共に、装飾や観賞の目的で設置されるようになりました。こうして、石灯籠は実用及び観賞用の両面から発展していきました。

●琴について

「箏」が正しい漢字ですが、常用漢字にないため、当て字として「琴」の文字が使われています。しかし、本来「箏」と「琴」は異なる楽器です。「琴」は1本あるいは2本もしくは7本の弦をギターのように指で押さえて演奏しますが、「箏」は箏柱と呼ばれる支柱の位置を動かすことによって13本もしくは17本の弦を調弦し、箏爪を付けて演奏します。



箏は、奈良時代に唐から雅楽の演奏楽器として持ち込まれ、奈良・平安時代を通じて京都を中心に朝廷や貴族の間で愛されました。また、平安の頃からは「弾き歌い」の伴奏楽器としても演奏されるようになり、これらは「枕草子」「源氏物語」「平家物語」などに記述がみられます。同様に雅楽も朝廷や貴族、寺院などで受け継がれました。



しかし、鎌倉時代になると貴族社会から武家社会への変化もあり、箏の中心が近畿から九州地方へと

移るとともに、雅楽を擁護した寺社、僧侶などの手により伝えられたのでした。

●コカリナについて

もとは「桜の木のオカリナ」と呼ばれ、東欧ハンガリーの屋外で売られていた笛でした。コカリナの第一人者である黒坂氏が命名し、平成7（1995）年に日本に紹介しました。その後、黒坂氏と日本の木工家により改良されました。オカリナは主に陶器製ですが、コカリナは木製です。



平成10（1998）年の長野五輪の際、オリンピック道路の建設によって伐採されなければならなかった木からコカリナを製作し、競技会場で子どもたちが演奏したことで、多くの人々に知られました。

長さ8cm、直径2.8cmの「ソプラノコカリナ」と呼ばれる高音域のものから、ワインボトルほどの大きさの「バスコカリナ」まで、様々な大きさのものがああります。また、3連4連に横につなげた「ジョイントコカリナ」もあります。

●庭園だより

●「竹灯籠のタベ」のはじまり

蝶やタンポポなどについて説明がありました。分類上はユリ科なのに「ラン」と名付けられた植物があるそうです！

●母屋の額「天竺」について

・新館に置いてある灯籠を外に出して火を灯し、その周りに竹灯籠を飾ったことが、このイベントのはじまりだそうです。
 ・村川さんが骨董品屋で購入したコレクションではないかと思われます。



無事に「竹灯籠のタベ」を開催できました！ご協力ありがとうございました！！

9月の来荘者数

平成27年9月の来荘者数は、235人でした。
 平成26年9月 848人 平成25年9月 866人
 平成24年9月 774人

●次回の月例会は・・・

11月1日（日）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。テーマは「白樺文学館企画展 原田東平展～我孫子を詠んだ歌人～」です。

旧村川別荘だより

104

平成27年11月18日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：須藤、矢野、田中
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

市民ガイド月例会が開催されました

11月の月例会が開催され、11月と12月分のシフトを調整しました。秋は団体のお客様が多くなりますが、ご対応をよろしくお願いいたします！

白樺文学館企画展 解説

11月の月例会では、白樺文学館企画展「原田京平展 ー我孫子を詠んだ歌人ー」について、白樺文学館を会場に学芸員が解説しました。

●原田京平とは？ ～「我孫子・白樺派」の伝道師～

原田京平は、1895（明治28）年に静岡で生まれました。画家としてこの我孫子を描き、また歌人として我孫子を詠んだ人物です。

我孫子との関係は、1921（大正10）年10月に新妻睦むつを連れて、島田久兵衛の別荘へ来たことにはじまります。当時我孫子に住んでいた志賀直哉とは近所であったことから、深い交流があったようです。志賀が我孫子を去った1923年3月以降は、志賀邸の留守居役として志賀邸で暮らしました。7年間我孫子で生活したのち世田谷に移り、1936（昭和11）年1月に40歳で生涯を閉じました。

●歌人としての原田京平

今回の企画展では、京平の歌人としての魅力に迫り、歌集『雲の流れ』に掲載された短歌から、我孫子時代の作品を中心に紹介しています。現在調査している中で、京平が歌人を名乗り活動した記録は確認できませんが、我孫子移住前の1918年頃より短歌を始めたことが歌集の年表に記されています。



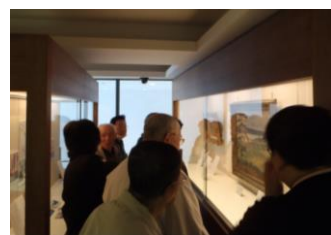
短歌の師 窪田空穂くぼたうつほ（1877-1967）も述べていたとおり、京平の短歌はまさに彼の「魂」であり、生きた記録といえます。日常生活で感じたこと

を詠むことで、その風景を心に刻み、画家としての活動にも活かしていたのかもしれませんが、また日本画家の肩書を名乗ったことも確認されていませんが、京平にとって日本画が我孫子・手賀沼の風景を繊細に表現する手法であったことは推察できます。

●我孫子の風景を詠む ～鳥・水・くらし～

大展示室では、京平が我孫子を詠んだ短歌を「鳥」「水」「くらし」の3コーナーにより紹介しています。「鳥を詠む」では、鳥のはく製（鳥の博物館蔵）とともに鳥の生き生きとした様子の短歌を味わえます。

「水を詠む」では、手賀沼の油彩画を背景に、短歌に誘われ時間旅行を楽しめます。「くらしを詠む」では、絵葉書や写真を多く用いて、京平が詠んだ風景を分析しています。当時の情景がよみがえる空間です。



●原田京平研究の広がり

和室小展示室では、京平の最晩年の短歌や民藝へと通じる短歌、そして京平に関する研究の広がりを紹介しています。中でも、河井弥八かわいやはち宛篠田治策しのだじさく書簡は、京平の没後妻睦が生計を立てる上で、亡き夫の絵画を売るために、京平と同じ静岡県出身の地元の名士（河井弥八：戦前に侍従次長、戦後に参議院議長を務めた。篠田治策：京城帝国大学総長を務めた。）に連絡をとったことが推測できる資料です。今後の研究の発展につながることを期待されています。

また、陶器に関する短歌とともに原田家に残された陶器も展示しています。その陶器自体の短歌であるか定かではありませんが、京平の「民藝」への想いが伝わってきます。そして短歌や絵画作品からは、台湾や朝鮮旅行をはじめ全国各地へ写生に出掛けたことがわかっており、そのような活動は麻那（京平の長女・染織家）に継承されたと考えられます。

●企画展は来年2月21日（日）まで開催中！

まだご覧になっていない方は、ぜひ期間中に白樺文学館で短歌を味わってみてください^^

竹灯籠の夕べ（10月9・10日）報告



★1日目★ 琴と尺八の生演奏♪昔の別荘の雰囲気を感じることができました。

★2日目★ コカリナとギターの生演奏♪風もなく、穏やかな夜を過ごせました。



ポスター掲示やチラシ配布、当日の灯籠設置、受付、ガイド、見回り等にご協力いただいたガイドの皆さん、本当にありがとうございました！

2日間で延べ472人のお客様にご来荘いただきました！（9日：上門41人、下門186人 10日：上門64人、下門181人）天気にも恵まれ、暑さもなく、とても素敵な夜が過ごせました。ガイドの皆さんのご協力により、大成功で終えることができました。ありがとうございました！！

連絡・意見交換など

●庭園だより

・ノーベル医学生理学賞を受賞した大村智さんの研究（病気に効く菌の発見）、ホトトギス（鳥・花）などについて紹介していただきました。

●ガイド名簿の作成

・ガイド同士で連絡を取り合えるよう、名簿（名前、

住所、電話番号などを掲載）の作成を希望します。

→希望者が多かったため、同意をいただいた情報のみを載せて作成することとします！ガイドの皆さんは別紙「名簿作成の同意書」をご提出ください。

●対応に悩むお客様について

- ・喫煙者がいたので、注意喚起してほしいです。
- 掲示物を工夫します。また、消防署による消防点検の指摘に基づいて整備していきます。
- ・ガイドとシルバーさんが女性のみの日、人相の悪いお客様がいらして怖い思いをしました。
- 注意することもできず、悩まれたことと思います。万が一、暴れる人や危害を加えようとする人が敷地内にいる場合は、ご自身の安全を第一に確保するとともに、教育委員会や警察に電話してください。

●ボランティア保険について

- ・ガイドの保険の内容を知りたいです。
- ガイド活動中は、市の市民活動支援課で加入している保険が適用されます。ご自身が怪我をしたとき、ご自身が旧村川別荘の物を壊してしまった場合が対象です。ご自宅との往復も、最短距離で行き来した場合にのみ対象になります（買い物等で寄り道した場合は対象外です。）。なお、他人を怪我させてしまったときには適用されません。研修の際は、別途イベント保険に加入します。参加者各自60円ほど負担していただく予定です。

●景観散歩・いろいろ八景めぐり

下記の日程で開催します！ご参加ください。

- ・景観散歩⇒11月28日（土）桜川市
- ・いろいろ八景⇒11月22日（日）布佐・新木、12月6日（日）湖北台、12月13日（日）・20日（日）我孫子地区

10月の来荘者数

平成27年10月の来荘者数は、948人でした。竹灯籠の夕べの開催により、来荘者数が多数でした！（参考）過去の来荘者数 平成26年10月 346人 平成25年10月 340人 平成24年10月 266人

次回の月例会は・・・

12月1日（火）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。テーマは「母屋が建てられた頃の世の中」です。ぜひご参加ください（^v^）





旧村川別荘だより



105

平成27年12月10日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、矢野、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子1684番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

市民ガイド月例会が開催されました

12月の月例会が開催され、12月と翌年1月分のシフトを調整しました。寒さが増す中ガイド20名が集まり、賑やかな会でした！年末は12月25日（金）まで、年始は1月5日（火）からシフトを組みました。どうぞよろしくお祈りします^^

母屋が建てられた頃の世の中

ガイド中に来荘者から「村川さんが別荘を建てた時代は、〇〇があった頃ですか？」と学生時代に習った知識と照らし合わせて質問された経験はありませんか？そこで今回は、母屋が建てられた時代に注目して、世界と日本の歴史を学習しました。

●村川堅固先生が別荘の土地を購入した頃

＜1917～18（大正6～7）年頃＞

まさに世界では**第一次世界大戦の真っ最中**でした。1914年6月28日にボスニア州都サラエヴォでオーストリアの皇位継承夫妻がセルビア人青年に暗殺された事件（サラエヴォ事件）が引き金となり、その1ヵ月後にオーストリアはセルビアに宣戦布告したことで、第一次世界大戦がはじまりました。

戦いの構図は、三国同盟（独・伊・奥）VS 三国協商（露・仏・英）でした。日本は第2次大隈重信内閣のもと、①日英同盟協約を口実にドイツに対して宣戦布告、②中国の山東省に出兵して青島（ドイツの軍事拠点）や赤道以南のドイツ領南洋諸島（えんせいがいグアム、マリアナ、パラオなど）を占領、③中国袁世凱政府に二十一カ条の要求を提出し、中国から強引に承認を得るといった動きをとりました。

1915～18年の日本経済は「**大戦景気**」による好況でした。債務国から債権国に転じ、その象徴として「なりきん成金」が現れました。



楚人冠が英国から持ち帰った、義勇兵を募集するポスター↑

ちなみに、楚人冠は1914～15年にジャーナリストとして戦地ヨーロッパで取材をしていました。

●我孫子宿本陣離れの取り壊し計画の話が出た頃

＜1921（大正10）年頃＞

第一次世界大戦が終わりヨーロッパ諸国の復興が進むと日本の輸出は激減し、1919年には輸入超過になりました。最大の要因は、生産の拡大を続けた産業が、大戦終結後も設備投資を止められずに増産を続けたことでした。これにより、物資が余り、物価が下落。さらに1923年の関東大震災による震災恐慌で、**経済不況**が深刻化していきました。

また、**国際協調**が進んだ時期でもありました。まず1919年にアメリカ大統領ウィルソンの呼びかけでパリ講和会議が開かれ、ドイツと連合国との間で講和条約（ヴェルサイユ条約）が結ばれました。ドイツへの賠償金賦課や軍備の制限、ポーランドの独立などが決定された他、戦争中に日本が占領した山東省の旧ドイツ権益とドイツ領南洋諸島の委任統治権が承認されました。これは、日本にとって日清戦争以来の領土拡大でした。

さらに、1921年にはアメリカ大統領ハーディングの提唱でワシントン会議が開かれ、軍縮をはじめとして太平洋・極東問題について話し合いました。英米日仏の間で調印された四カ国条約では、太平洋における勢力の現状維持が確認され、日英同盟が廃棄される結果となりました。また、英米日仏伊の5大国にベルギー、ポルトガル、オランダ、中国を加えて結ばれた九カ国条約では、中国の領土保全・門戸開放・機会均等が規定されましたが、これにより石井・ランシング協定（日米間で中国における権益を認めたもの）が廃棄されるとともに、二十一カ条の要求以来日本が占領していた山東省の旧ドイツ権益も返還することになりました。

●本陣離れを移築、母屋が完成した頃

<1922 (大正11) 年頃>

1917年のロシア革命を起源とし、各地で内戦が繰り広げられました。結果、ロシア、白ロシア、ウクライナ、ザカフカースの各共和国を統合し、1922年にソヴィエト社会主義共和国連邦が成立しました。

また、1921年にヒトラーがナチ党首となり、翌年にはイタリアでファシスト政権が成立しました。すなわち、ファシズム国家出現の兆しが見え始め、各国の政局が大変不安定な時期であったといえます。

そしてこの先、1928年にイタリアでファシスト党の独裁が確立し、1933年にドイツでヒトラー内閣が成立することになります。(その後1939年にヒトラー率いるナチス党

がポーランドに侵攻し、第二次大戦勃発へ…)



●おまけ情報

- ・1917 (大正6) 株式会社鈴木商店 (のちの味の素社) 創立、ラクトー株式会社 (のちのカルピス株式会社) 創立
- ・1918 (大正7) 森永ミルクチョコレート発売
- ・1919 (大正8) 森永ミルクココア発売、大和運輸 (のちのヤマト運輸) 創立
- ・1921 (大正10) 大日本蹴球協会 (のちの日本サッカー協会) 創立
- ・1922 (大正11) 旬刊朝日創刊 (2月。4月に週刊朝日となる)、サンデー毎日創刊
- ・1923 (大正12) アサヒグラフを創刊

●まとめ

大正時代は、ヨーロッパを中心として世界的には混乱期でしたが、日本の知識層や中間階層にとっては比較的安定した豊かな時代であったと考えられます。週刊朝日などの創刊により情報が得られ易くなり、世の中に関心が向けられるようになりました。

村川先生が土地を購入して母屋を建てた頃は、世界中が混乱していましたが、別荘地我孫子は比較的穏やかな環境であったと推測できます。また日本経済の影響を受けず、この時期に別荘を建築していることから、東京帝国大学教授の地位の高さや国からの期待の大きさが感じられます。

連絡・意見交換など

●庭園だより

- ・歌やナゾナゾ遊びを交えながら、サザンカなどの植物を中心にお話していただきました。



↑ 新館前の紅葉

●景観あびこ

- ・「我孫子のいろいろ八景歩き」は好評につき、申込み定員に達したため、募集を終了しました。
- ・最新号には、杉村楚人冠記念館の庭園の様子、竹灯籠の夕べに関する記事が載っています。

●イベントのお知らせ

- ・二展会写真展を開催します。ぜひお越しください。
日時：12月8日(火)～13日(日) 10～16時
会場：けやきプラザ第二ギャラリー

●冬時間について

- ・12月から「ひなのまつり」の前まで、ガイドの活動時間を9時半～15時半にします(朝夕30分ずつ短縮)。ただし、事前に来客がわかっている際や、15時半頃に来荘者がいたときには、ご対応をお願いしたいと思います。ご協力ください！なお、開館時間(9時～16時)は変更しません。

●J: COMのDVD回覧

- ・東葛調査隊第4弾のDVDを回覧します。新館の押入に入っていますので、ご覧になりたい方は、借用簿に記入してからお持ち帰りください。

●2月4日(木) 江戸東京たてもの園 日帰り研修

- ・月例会で研修日程を記載したチラシを配布しました。1月の月例会で出欠をお知らせください。なお、バスを借りるためには25名以上出席者数が必要です！ガイド以外の方にも参加の呼び掛けをお願いします！(ガイド以外の定員は13名！)

11月の来荘者数

平成27年11月の来荘者数は、313人でした。
(参考) 過去の来荘者数 平成26年11月 677人
平成25年11月 482人 平成24年11月 608人

次回の月例会は・・・

平成28年1月7日(木) 9時30分から旧村川別荘新館で開催します。テーマは「帝国大学の歴史」です(^▽^)今年も大変お世話になりました。良いお年をお迎えください！

旧村川別荘だより

106



平成28年1月19日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、矢野、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子1684番地

TEL:04-7185-1583(直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

市民ガイド月例会が開催されました

あけましておめでとうございます。昨年ガイドの皆さんに支えられ、たくさんのお客様に旧村川別荘の魅力をお伝えすることができました。これからも、より多くの方々にとって親しみの場となりますよう願っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(*^▽^*)



1月7日(木)に月例会を開催し、1月と2月分のシフトを調整しました。2月23日(火)～3月6日(日)のひなのまつり開催期間中は、2人シフト体制でお願いします!

帝国大学の歴史

戦前の東大卒業生や教授は歴史上の偉人として名が残ることが多いようですが、現代の東大の役割や教授の社会的地位とは大きな違いがありました。今月は帝国大学について取り上げ、歴史を覗いてみました!

●帝国大学とは?

帝国大学は、大日本帝国の教育研究機関でした。まず、1886(明治19)年に帝国大学令が公布されて「帝国大学」が誕生すると、それまでの学部制度が廃止され、法・医・工・文・理の5つの「分科大学」が置かれました。当初「帝国大学」は東京に1つしかありませんでした。

のちに数が増え、終戦まで9つの帝国大学が存在していました。京都帝国大学の誕生と同時に、東京の「帝国大学」を「東京帝国大学」に改称しています。また、かつて日本の支配下であった韓国や台湾にも帝国大学が設置されていました。

●東大の誕生(帝大誕生より前の話)

東京大学の前身は、1797(寛政9)年設立の昌平黌と、1857(安政4)年設立の蕃書調所、そして1858(安政5)年設立の種痘所の3つの教育機関です。

昌平黌は、儒学者林羅山の私塾を五代将軍徳川綱吉によって幕府の学問所としたものが源です。蕃書調所は、幕府の洋学研究機関として中心的な役割を果たしました。種痘所は、当初牛痘の摂取のみを扱っていましたが、のちに幕府の直轄機関である蘭学異学の研究・教育機関としての役割を担っていました。

そして明治新政府の成立に伴い、これらの旧幕府の管轄下にあった機関は、政府に接收される形で復興し、総合学園構想に基づいて生まれ変わりました。

① 本郷湯島 昌平学校(もとの昌平黌)

⇒**大学**(国学・漢学の教育研究者の養成機関)

…学問論争が起こったことにより、新政府は国学復古から洋学重視の方針に転換し、のちに閉鎖。

② 神田一ツ橋 開成学校(もとの蕃書調所)

⇒**大学南校**(西洋の社会・人文諸学の教育研究者の養成機関) ⇒**東京開成学校**(神田錦町に移転)

③ 下谷和泉橋通 医学校(もとの種痘所)

⇒**大学東校**(西洋医学の教育研究者の養成機関)

⇒**東京医学校**

西南戦争勃発直後の1877(明治10)年4月に東京開成学校と東京医学校が合併し、東京大学が誕生しました。当初は法・理・文の3学部と医学部と予備門の3つの機構で構成された緩い統合体に過ぎませんでした。キャンパスとして江戸時代の大名屋敷であった本郷の加賀前田家上屋敷を用いるとともに、法・医・工・文・理の5つの分科大学を設置するなど、徐々に整備されていきました。

●帝国大学の役割

現代との大きな違いの一つは、当時の大学は現在の文科省のような「教育行政機関」であったということです。例えば、



← 東大の赤門

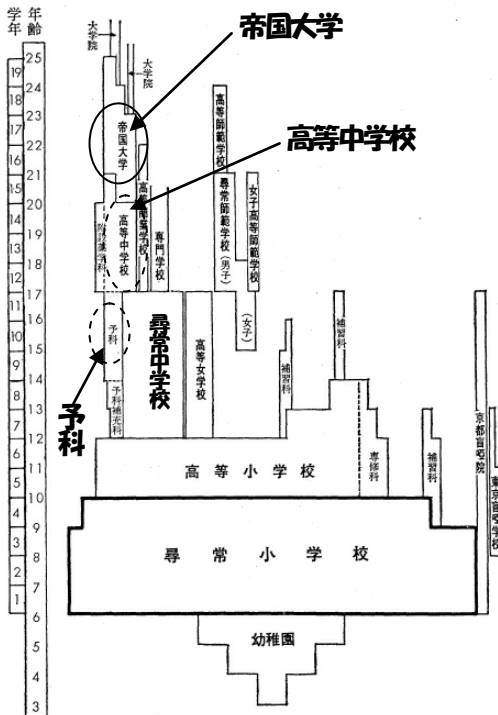
1880（明治13）年の文部省予算の經常経費総額が約106万円であったうち、東京大学の経費は約43万円であり、実に約40%を占めていました。

1886（明治19）年の帝国大学令公布に伴い、大学は国家のための最高の学術機関であり、指導者養成の機関であると明確に位置付けられました。この当時、欧米の近代文化を輸入し、近代日本を建設するための指導者養成機関が必要だったのです。

帝国大学時代以前の教授陣は外国人ばかりでしたが、のちに養成した日本人を教授に迎え、堅固先生も就任当初から西洋史の講座を担当していました。

ちなみに、教授の給与は「東京帝国大学高等官教官等奉給令」により定められていました。国家公務員の専門職のような位置づけだったようです。

●帝国大学に入学するには？



左図の通り、帝国大学に進学する道は非常に難関でした。まず高等中学校の予科に入学することも難しく、地方の尋常中学校出身者は外国語を主とする東京の私立学校など

に入ってから高等中学校の予科に入学する状態だったようです。それから高等中学校本科、帝国大学へと進んだため、卒業生の平均年齢は25～27歳でした（堅固先生は23歳で卒業しています！）。

1890（明治23）年の帝大の学部在籍学生数は635人、1898（明治31）年の文学部卒業生は66人、うち史学科卒業生は26人でした。一方で、昨年11月時点の東大の学部在籍学生数は13,939人、うち文学部（後期課程）が786人であることから、昔の方がより狭き門であったと想像できます。

やはり堅固先生をはじめ、帝大関係者は偉大ですね。

●帝国大学時代から現在の東大へ

終戦を迎え帝国大学は姿を消し、1947（昭和22）年の「大学基準」制定を機に、韓国と台湾の帝国大学を除き、国立大学として再出発しました。

連絡・意見交換など

●庭園だより

・毒になる植物や薬用植物を取り上げ、お話していただきました。

●旧井上家住宅の工事現場見学会

日時：1月23日（土）10時～、14時～

※広報に掲載されます。事前に電話予約が必要です。

●市史研の字誌出版記念講演会

日時：1月30日（土）14時30分～16時30分

会場：けやきプラザふれあいホール

テーマ：地名のなりたち

★事前申込み不要

講師：日本地図センター客員研究員 今尾氏

●三木会の講演会

日時：2月19日（金）9時30分～

会場：アピスタ第4学習室

テーマ：人口減少時代の地域ガバナンス

講師：福嶋浩彦氏（前市長）

★事前申込み不要

費用：会員以外は500円

●文化財展（寄贈絵画展と同時開催）

・根戸船戸遺跡1号墳から出土した刀剣や市指定文化財中里薬師三尊像を展示します。

日時：2月20日（土）～23日（火）10～17時

会場：市民プラザ

★事前申込み不要

※20日（土）14～15時に、発掘や中里薬師堂の仏像修復の報告会を実施します！

●杉村楚人冠記念館テーマ展示「河村蜻山と湖畔吟社」を2月28日（日）まで開催中

・以前に月例会で取り上げた灰皿も展示しています。

12月の来荘者数

平成27年12月の来荘者数は、368人でした。

（参考）過去の来荘者数 平成26年12月 179人

平成25年12月 200人 平成24年12月 250人

次回の月例会は・・・

2月4日（木）江戸東京たてもの園の研修時（行きバス内）に開催します。1日には開催しません。

研修参加申込者は、同封の案内をご覧ください^^

旧村川別荘だより

107



平成28年2月16日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、矢野、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

市民ガイド月例会が開催されました

2月4日(木)江戸東京たてもの園への日帰り研修の往路バス内で行いました。遅刻者ゼロ！全て予定通りに進み、2月と3月のシフトもスムーズに調整することができました。参加者の皆さん、ご協力ありがとうございました。(*^_^*)

江戸東京たてもの園研修(報告)

以前からリクエストが寄せられていた東京都小金井市の「江戸東京たてもの園」に行ってきました！平成19年12月にも訪問した場所で、今回は2度目の訪問でした(旧村川別荘だより第3号参照)。前回訪問以降に加わったメンバーも多数いますし、新たに移築された建物もありましたので、大変有意義なひとときとなりました^^

福祉バスで、8時30分に我孫子駅北口られあい広場で集合して向かいました。10時30分に現地に到着し、12時10分まで2グループに分かれて現地ガイドの説明を受けました。14時頃に再集合するまで、各自で昼食と自由観覧を楽しみ、14時30分にバスで帰路につきました。

* * * * *

いくつか、当日の様子を写真で振り返ってみたいと思います♪

冒頭、現地スタッフに案内を受けました。いざ！



邸内を散策中～。いろんな建物がありましたね。



茅葺の建物もありました！！



邸内でランチができるカフェ。概観が素敵です♪
みなさんは、美味しいお昼となったでしょうか？



編集T的に、万世橋交番はとても印象的でした。



井戸です！みなさん、裏手にあったのですが気づきましたか？実際に水が出たことに感動しました！



子宝湯です。みなさん、懐かしんでいらっしやいましたね。このエリアは下町の風情がテーマでした。



最後は集合写真！

みなさん、ご自分で好きになった、または気になった建物はありましたか？

この研修をきっかけに、古い建物や街並み、そしてそれらを当時建てた人々へ思いを馳せると、また違った角度で旧村川別荘をご紹介できるかもしれません。みなさんにとって一つでもプラスになった研修であったならば幸いです。(*_^*)

連絡・意見交換など

●庭園だより

・バス内で、落葉樹などについてお話していただきました。

●景観あびこの紹介

・最新号に「旧村川別荘の冬」が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

●文化財展（寄贈絵画展と同時開催） ～再掲～

・根戸船戸遺跡1号墳から出土した刀剣や市指定文化財中里薬師三尊像を展示します。

日時：2月20日（土）～23日（火）10～17時

会場：市民プラザ

★事前申込み不要

※20日（土）14～15時に、発掘や中里薬師堂の仏像修復の報告会を実施します！

●ひなのまつりの事前準備

・2月22日（月）午前9時から「つるしびな」の搬入等を行う予定のため、都合がつくガイドの方はご協力をお願いします！

・新館の押入れにツバキのブローチを置きましたので、一人一つずつ名札に付けてください。

●三木会の講演会について訂正

・旧村川別荘だより第106号でお知らせした講演会は「参加費無料」です。ぜひご参加ください。

●直木賞受賞作家、作品

・青山文平さんの作品に関するご紹介がありました。

1月の来荘者数

平成28年1月の来荘者数は、197人でした。

（参考）過去の来荘者数 平成27年165月 人

平成26年1月 315人 平成25年1月 277人

次回の月例会は・・・

3月1日（火）旧村川別荘新館で開催します。テーマは「ひなまつりのあれこれ」です！“ひなまつり”も絶賛開催中となりますが、みなさまどうぞよろしく願いいたします。^^

平成28年3月25日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL 04-7185-1583 (直通)

E-mail: abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

108



市民ガイド月例会が開催されました

3月の月例会が開催され、3月と4月分のシフトを調整しました。

2月23日(火)から3月6日(日)までは、「ひなのまつり」(後程詳しく…!)ということもあり、午前も午後もシフトを2名体制としました。

みなさま、ご協力ありがとうございました。^^

「ひなまつり」のあれこれ

さて、だいぶ日を過ぎてしまいましたが、3月と言えば、そう「ひなまつり」です。毎年、季節になるとお店のあちこちに、“おひなさま”の文字が並びます。そこで、3月の月例会では「ひなまつり」について、意外に知られていない?ことなどを勉強しました。ここでは、主だったことを紹介していきます。(*^_^*)

●ひなまつりとは?

～ひなまつりは「上巳の節句」～

中国では昔、3月最初の巳の日を「上巳」といい、邪気を払うために川へ行き、禊(しじょうし)を行い、酒を飲む風習がありました。これがのちの「曲水の宴」に発展したのです。「曲水の宴」とは、川や池のほとりに座って、上流から流されてきた杯が目の前を通り過ぎないうちに歌を詠み、かつ杯を取り上げて酒を飲むという風雅な行事です。この風習が平安時代の日本の宮中に伝わりました。一方で、日本においては3月に人形を作り、それで体をなでて穢れを移したのちに、川などに流す習慣がありました。3月3日の“ひなまつり”は、中国の「上巳」と日本の「禊(しじょうし)」の風習が結びついた五節句の一つです。なお、ひなまつりは「桃の節句」とも呼ばれ、桃の花や菜の花など、春らしい花を一緒にいけることで、女の子の幸せを願う行事として親しまれてきました。



●ひな人形の豆知識

～ひな人形の歴史を紐解く～

ひな人形を飾るようになったのは、室町時代からと言われています。当時のひな飾りは男ひなと女ひなの二つだけで、紙でできた素朴なものでした。江戸時代に入り、裕福な町人もひな人形を飾るようになり、江戸時代の中ごろには庶民の家でも飾るようになりました。人形がたくさんあれば、多くの災難や穢れを移すことができるという考え方が生まれたため、この頃から人形の数が増えていき、現在のよなひな壇飾りが登場したと言われています。また、女性を象るというところから、縄文時代の土偶にもそのルーツがあるという説もあり、おひな様の歴史の奥深さに気づかされます。



～「人形」としての意義～

次第に豪華になっていったひな飾りですが「人形」としての意義が失われることがありませんでした。女性が旅行や嫁入りの道中での災いを人形に代わってもらおうと抱いて輿に乗ることが習わしとなりました。このようなことから公家や武士などの上流階級では婚礼の嫁入り道具の中にひな人形を入れるようになったのです。嫁入りをまねた人形が作られるようになったことから、はじめは一体だった人形が男女二体の内裏雛となっていきました。

●ひな飾りについて

～ひな飾りのあれこれ～

一般的には7段飾りが有名ですが、今では1段のもの、3段のものと同様様々な種類があるのがひな飾りです。もともとは女の子の身代わりとして穢れを移して流すものでしたが、豪華になっていったため、流す代わりに片づけを行うようになりました。そのため、立春からひなまつりの1週間前までに飾り、お節句が終われば早



くしまわないと悪いことが起こると考えられるようになったのです。

おひなさまをしまうにあたっては、天気がよく、空気が乾燥した日には、片づけたいところですが、天気が悪い場合、また忙しく片づけることができない場合は、女びなを速やかに後ろ向きに飾るなどします。ちなみに、内裏びなは一般的に男びなを向かって左側に、女びなを向かって右側に飾りますが、もともとは逆に飾っていたそうです。日本では、向かって右側が上位、向かって左側が下位と考えられていたので、上位には男性、下位には女性が座るようになっていましたが、昭和天皇の即位にあたり、西洋方式で天皇が向かって左側に皇后が向かって右側に並んだ写真が報道されたため、一般の人にもそれにならうことになり、内裏びなも同じように飾られるようになったとされています。地域によっては、その風習が残っているところもあるそうです。

このように、ひなまつりに関することだけでも、様々な考え方、歴史があります。日本の大事な文化を大切にしていきたいですね♪(*^_^*)

ひなのまつり特集！！

☆ひなのまつり開催…2月23日～3月6日☆

今年も驚見さんをはじめ、多くの方のご協力により、「ひなのまつり」が開催されました。今年、早くからの宣伝ができたこと、そしてイベント開催期間、



一度も雨が降らなかったこと ↑今年の干支お猿さんがお出迎え

とも功を奏してか、来荘者数の合計はなんと1939名になりました！（みなさんが書いてくださった日誌とシルバーさんがつけている日誌と突き合わせました。）開催直後に朝日新聞と東京新聞に掲載された効果もあり、電話のお問い合わせもたくさんいただきました。^^



つるし雛はみなさんがご存じのとおり、江戸時代後期を発端としており、這い子人形、巾着、俵ネズミ等、多くの縁起物をつるし、子孫繁栄を願い、家族の幸せ、人の輪を表したものとされています。



「おひなさま」と「つるし雛」、いつの日もいつの時代もその子や孫の幸せを願う気持ちは変わらないと思います。これからも大切な行事として受け継いでいきたいですね。驚見さん、みなさん、本当にご協力ありがとうございました！！(*^_^*)

連絡・意見交換など

●庭園だより

・カラスや花粉についての解説をいただきました。

●Jcomの撮影について

・3月1日（火）月例会後「ひなのまつり」を撮影。その日の17:40～、21:00～、23:00～のJcomのニュースで放映されました。

●内覧会のお知らせ⇒無事に終了しました！！

・3月4日（金）に白樺文学館、杉村楚人冠記念館において展示内覧会の案内を行いました。

●村川市民ガイド設立10周年記念イベント等について

・5月GW前に向けて、“10周年の歩み”のような企画展を行いたい ⇒4月月例会でお話します！

●「アートな散歩市」について

・昨年実施した芸術関係の展示会を来年度も行うことになりました。5月17日（火）～5月22日（日）まで開催予定。⇒詳細はまたご連絡いたします！

●景観を育てる会より

・3月28日（月）に毎年恒例のゴルフ場で観桜会を行います。⇒無事に終了しました！！

2月の来荘者数

平成28年2月の来荘者数は、1,026人でした。

（参考）過去の来荘者数 平成27年2月1,072人
平成26年2月1,006人 平成25年2月882人

次回の月例会は・・・

平成28年4月1日（金）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。(*^_^*)

